

2023.03.24 3 学期終業式

おはようございます。今日は私にとっても最後の講話になりますので、38 年の教員人生を振り返って皆さんに2つの事をお話ししたいと思います。

まず一つ目です。与えられた仕事を楽しんで精一杯やればどこかで誰かが助けてくれるなど経験上感じたことです。私は大学卒業後すぐに隠岐島前高校に赴任し、1 年目から2 年生の担任と経験のないバレー部の顧問を任されました。わからないままに必死でやっているといろいろな人が助けてくれなんとかやりきることができました。それ以降転勤後も含めて8 年連続で担任、おまけに2 校目の移動はバレーの顧問として松江東に引っ張ってもらいました。その後22 回も担任をさせてもらい生徒の身近で感動を共有する機会を得ました。その他主任や素人ながら野球部監督など与えられた仕事を楽しみながら一生懸命やった結果、多くの経験や出会い・感動があり、今の自分があると思っています。楽しんでやっても文句を言いながらやってもどうせやらねばならないのなら楽しんだ方が、応援もしてもらえ、成果も上がり楽しんだ者勝ちかなと思います。勉強でも同じではないですか。毎日6・7 時間授業があります。ぼーっとしていやいや座っていても時間は過ぎていく。だったら授業を集中して理解してしまおうと集中していれば、家庭学習をそんなにしなくても力はつき部活動にも集中でき文武両立もしやすくなるのではないのでしょうか。もちろん家庭学習で定着させるに越したことはないですが。

2 目です。また、仕事に関して次のような話がある本で読んだことがあります。こんな話でした。仕事をすれば報酬があります。最初は給料でそれを得るためだけの仕事は生活の糧として必要な食料を手にするためのライスワークです。しかしその仕事を本気で取り組んでいくとだんだん仕事が面白く思えてきます。そうなるとライクワークとなります。そしてさらに好きな仕事をさらに心を込めて意欲的に取り組んでいけば仕事を通して自身の能力の向上が感じられ、仕事の報酬は給料だけでなく自分の能力の向上の喜びになり、一生続けていける仕事ライフワークになっていきます。そしてライフワークを極めていくと多くの人に喜びを与え社会に光を与えるライトワークとなります。仕事も究極の目標はこのライトワークであり仕事で得られる最大の報酬は自己の人間としての成長であると。今、世の中は働き方改革が叫ばれています。しかし働き方改革も、ただ勤務時間を削減するという時短第一主義のみで考えるのではなく、その仕事にどのような価値ややりがいを見だし楽しんで仕事に向かうやりがい第一主義で考えると職業選択の視点も変わってくるのではないのでしょうか。皆さんの人生、総合的な探求の時間の「ユーは安来で何してる」に来ていただいた皆さんのようにやりがいをもって充実し日々成長できるライトワークを目指してほしいと思います。

さて令和4年度も今日で終わります。コロナも5月からは5類に移行することで少しずつ制限も緩和されてきていますが、5月までは2類でありこれまで同様感染が確認されれば学校閉鎖や休校の可能性もあります。新学年がその様なことがないようスムーズに始まるように、引き続きそれぞれの立場でできる感染症対策は継続して欲しいと思います。この春休みも次なる年度への助走期間として、「きびしく 高く 美しく」充実した日々を過ごしてほしいと思います。